

病害虫防除技術情報第3号

令和元年6月7日

三重県病害虫防除所

スクミリンゴガイの発生と被害が増加しています。

浅水管理とあわせて薬剤で防除しましょう。

1. 対象作物 水稲

2. 対象病害虫名 スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

3. 発生状況等

近年、スクミリンゴガイによるイネの被害(食害によ欠株)が急激に増加しています。県内の被害発生圃場率は地域ごとに異なるものの、毎年増加し令和元年6月現在9.7%(、病害虫防除所巡回調査結果)となっています(表1)。

本年は暖冬傾向で推移したため、スクミリンゴガイの越冬個体数が多いことから、被害の増加が予想されます。

また、移植時期が比較的小さい、飼料用米や業務用米の作付面積拡大に伴い、被害の拡大傾向は今後も続くと考えられます。

4. 生態と被害状況

(1) 柔らかい植物を好んで食べます。イネへの被害は、田植え直後～20日後までのイネが柔らかい時期に集中しています。

(2) 水温が高い(15～35℃)と活発に活動し、被害が増加する一方、14℃以下では活動を休止します。

(3) 圃場内の浅水管理ができる部分では被害が少ないですが、水深の深い部分や深水管理の圃場では被害が大きくなります。田面が低い取水口やマクラ周辺は、特に被害が目立ちます。

(4) 大型の貝ほど食害量は大きく、1cm以下の幼貝は食害しません。

(5) 水稲収穫後、貝は水田や水路の土の中で越冬します。冬期に耕うんして貝を傷つけたり、寒さにあてることで圃場内の貝は減らせますが、水路で越冬した貝は排水口等からほ場に侵入し被害を拡大します。

5. 防除対策

(1) 適期防除に努めましょう

田植え後20日後までは特に注意して、できるだけ5cm以上の深水をさけるとともに、スクミリンゴガイを見つけた場合は、すみやかに薬剤防除を行いましょう。(表2)

特に、水温が高くなる5月中旬以降に田植えの圃場は、貝の発生に注意して適期に防除して

ください。

(2) 用水路からの侵入を防止し、圃場内の貝を減らしましょう。

取水口や排水口からの侵入を防ぐため、水路にいる卵塊は早めに水面下へ払い落とすことで、水中で卵が孵化できず死滅します。

個人個人での補殺は、なかなか効果があがりません。地域ぐるみでの実施を検討しましょう。また、ほ場の排水口等に目合い 5～10mm の網を設置すると侵入を防ぐことができます。

表 1 スクミリンゴガイによる被害発生圃場率 (H26～R1 年の 6 月調査、三重県病害虫防除所)

地区	調査月日 (令和元年)	調査 圃場数	スクミリンゴガイの被害発生ほ場率(%)					
			平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
桑名	6/6	32	0	2.8	3.1	9.4	12.5	9.4
四日市鈴鹿	6/4	48	0	0	4.2	4.2	4.2	4.2
津	6/6	36	0	2.3	5.6	5.6	8.3	11.1
松阪	5/31	36	0	0	8.3	5.6	5.6	27.8
伊勢志摩	6/3,7	40	0	0	0	2.5	2.5	0
伊賀	6/7	28	0	0	0	0	0	0
紀州	5/31	16	0	0	0	25.0	25.0	25.0
県全体		236	0.0	0.6	3.4	5.9	6.8	9.7

注意: 県内の水田のうち、限られた圃場における調査結果のため、参考資料としてください。
(発生圃場率が「0」の地域においても、被害のある圃場があります)

表 2 スクミリンゴガイに登録のある薬剤例 (令和元年 6 月 5 日時点)

薬剤名	有効成分	使用量	使用時期	備考
ジャンボたにしくん スクミノン	メタアルデヒド	1～2kg/10a	収穫 60 日前まで	殺貝剤
スクミンベイトS	磷酸第 2 鉄	2～4kg/10a	発生時	殺貝剤
パダン4	カルタップ	4kg/10a	収穫 30 日前まで	食害防止剤

※食害防止剤は貝の活動を抑制して食害を防止するため、殺貝剤を施用する前に使用しないでください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。